

平成 30(2018)年度
一橋大学大学院国際・公共政策教育部(国際・公共政策大学院)
専門職学位課程
春季外国人留学生特別選考 学生募集要項

1. アドミッション・ポリシー

一橋大学は、「日本及び世界の自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手を育成することを使命」(一橋大学研究教育憲章)とし、創立以来、国内のみならず国際的に活躍する、多くの有為な人材を輩出してきました。今日では、従来の国内外の秩序の変動と、多様なリスクに直面するなかで、国内レベルでも世界レベルにおいても、長期的かつ大局的な視野に立った変革への具体策と、それを実行に移すリーダーシップが求められています。また、現代の世界においては、国民国家中心の体系がゆらいできた結果、公共政策の立案・実施において、国家・市場・市民社会等の様々な視点からの総合的な分析が必要不可欠になってきています。

専門職大学院である国際・公共政策大学院では、このような問題意識を念頭におきつつ、法律学・行政学、国際関係、経済学のいずれかの専門領域の分析方法を習得した上で、隣接分野の視点も取り入れ、現実の諸問題に対して専門的・総合的知見を持つとともに、倫理観と責任感を兼備した、プロフェッショナルな人材の育成を目標としています。具体的には、中央・地方レベルにおける公務員、国際機関・NPO・NGO等の職員、シンクタンク等の研究員、一般企業等において公共政策・国際関係に携わる人、マスコミ等で公論形成に携わる人など、様々な場で建設的・主体的な役割を果たすことで、社会に貢献できる人材を輩出したいと考えています。

本大学院では、優れた問題意識、課題設定能力、調査のための誠実さ、緻密な分析力、政策構想力、コミュニケーション能力、実行に移すことができる行動力をもったプロフェッショナルおよびリーダーを目指す人を歓迎します。上記の専門領域の分析方法を体系的に習得する強い学習意欲を持ち、また、講義等を理解し、討論にも積極的に参加できる日本語能力を有し、さらに将来は日本での留学経験を活かして国際社会のさまざまな場で、中心的存在として活躍することを目指す、意欲的な留学生の応募を期待しています。

2. 入学時期等

4月入学。授業科目は、一部科目を除き、国立キャンパスにて、日本語で、かつ昼間に行われます。

3. 学位

専攻	プログラム	学位
国際・公共政策	公共法政プログラム	国際・行政修士(専門職)
	グローバル・ガバナンスプログラム	
	公共経済プログラム	公共経済修士(専門職)

4. 募集人員

プログラム	募集人員
公共法政プログラム	若干名
グローバル・ガバナンスプログラム	
公共経済プログラム	

(注1) 春季一般選考及び春季社会人特別選考については、別途募集要項があります。

5. 出願資格

出願時点において、日本滞在期間が2年以下の者で、つぎの各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者及び平成 30 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了し、B.A.又は B.S.を取得した者及び平成 30 年 3 月までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (6) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定（大学院への飛び入学）により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする本学の研究科等において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (7) 本大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達したものと及び平成 30 年 4 月 1 日までに 22 歳に達するもの
- (8) 所定の手続により、本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(注 2) 出願時点とは、出願期間の初日を基準日とします。

(注 3) 出願資格(6)(8)による志願者は、平成 29 年 11 月 17 日(金)までに国際・公共政策大学院事務室へ出願資格について書面で問い合わせてください。

(注 4) 出願資格(7)による志願者は、出願期間前に個別の出願資格審査を行います。個別の出願資格審査にかかる必要書類は、平成 29 年 11 月 17 日(金)までに国際・公共政策大学院事務室へ書面で問い合わせてください。個別の出願資格審査書類の提出期限は平成 29 年 11 月 20 日(月)から平成 29 年 11 月 24 日(金)までです。出願資格審査結果は平成 29 年 12 月 15 日(金)頃に通知する予定です。

6. 出願書類

書類等	提出者		摘要
入学志願票	全 員		所定の用紙に必要事項を記入し、写真を添付してください。
写真票	全 員		所定の用紙に必要事項を記入し、写真を添付してください。
卒業（見込）証明書 (注 5)参照	全員	上記出願資格(1)による出願者	出身大学等が公式に発行したもの。ただし、卒業見込の者は卒業見込証明書をもって代えます。 なお、本学卒業（見込）者は、成績証明書をもって代えます。
		上記出願資格(2)(3)(4)(5)による出願者	B.A.または B.S.を有する証明書。ただし、卒業見込の者は卒業見込証明書をもって代えます。
成績証明書 (注 5)参照	全 員		出身大学等が公式に発行したもの。

書類等		提出者	摘要
研究計画書 提出部数 3部 (正本1部、副本2部)		全 員	以下の3点についてまとめてください。 ① 従来の勉強の成果 ② 入学後のテーマ ③ 修了後の進路希望
		プログラム	言語及び字数
		公共法政	日本語で2,000字程度
		グローバル・ガバナンス	日本語で1,600字程度、又は英語で1,000words程度
「TOEFL」又は「TOEIC」の成績証明書 (注6)参照		英語を母国語としない者で、グローバル・ガバナンスプログラム又は公共経済プログラムを志望する者	TOEFLは、平成28(2016)年2月以降に受験したTOEFL(iBT,CTB または PBT)に限る。ITPは不可)の成績証明書を提出してください。 (1)TOEFLの「 公式スコア票(Official Score Report) 」を試験実施機関であるETSから大学に直送されるよう手配してください(出願期間前必着)。TOEFLの成績証明書送付のための <u>Institution Code</u> は 0436、 <u>Department Code</u> は 80 です。 (2)ETSから志願者本人に送付された「 受験者用控えスコア票(Examinee Score Report) 」の写しを提出してください。 上記、(1)及び(2)の両方が必要です。
			TOEICは、平成28(2016)年2月以降に受験したTOEIC TEST(国際コミュニケーション英語能力テスト)の公式認定証(Official Score Certificate)を提出してください。TOEIC SW TEST や TOEIC Bridge の公式認定証は不可です。また、「団体特別受験制度(IP: Institutional Program(IP テスト))」のスコアレポートも不可です。
			平成28(2016)年2月以降に受験した①または②を提出してください。どちらの提出もできない場合に限り、これに代えて「日本語能力評価票」を提出してください。
			①日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験(N2以上)の「 認定結果および成績に関する証明書 」 ②日本学生支援機構が実施する日本留学試験の「日本語」の「 成績証明書(日本在住者) 」または「 成績通知書 」の写し (日本国外在住者) (日本の大学を卒業(見込)または日本の大学院を修了(見込)の者は提出不要です。)
日本語能力を証明する書類	日本語能力試験の「成績証明書」	日本語能力試験受験者	
	日本留学試験の「日本語」の「成績証明書」	日本留学試験受験者で、日本在住の者	
	日本留学試験の「日本語」の「成績通知書」の写し	日本留学試験受験者で、日本国外に在住の者	
	日本語能力評価票(A票及びB票)	日本語能力試験等未受験者	
推薦書 3通		全 員	3名からの推薦書(日本語又は英語で書かれたもの)が必要です。決まった書式はありません。 厳封したものを提出してください。 ※推薦書は、出身大学等の学長、学部長または指導教員もしくは研究状況や研究目標等について十分な評価をなし得る者、または、勤務先の上司など、志願者の職業上の経験・能力を知る者が作成したものが望ましい。
在留カード(表裏両面)の写し		全 員	在留カードが交付されていない場合は、パスポートの写しを提出してください。
受験票送付用封筒 (注7)参照		全 員	定形封筒(長3号(120mm×235mm):官製はがきが入る大きさ)に、簡易書留相当分(392円)の郵便切手を貼り、受験票送付先の住所・氏名を明記してください。 (日本国外に在住の方は不要です。)

書類等	提出者	摘要
入学検定料振込明細書の写し又はクレジットカード決済完了画面の写し	日本政府（文部科学省）奨学金留学生を除く全員	所定の用紙にのりで貼ってください。
日本政府（文部科学省）留学生証明書	日本政府（文部科学省）奨学金留学生	所属する大学が発行したもの。

- (注5) 「卒業（見込）証明書」及び「成績証明書」について、複数の大学を卒業（見込）または大学院を修了（見込）の場合は、すべての大学、大学院における「卒業または修了（見込）証明書」「成績証明書」を提出すること。
- (注6) TOEFLまたはTOEICの受験は、出願期間までに所定の成績証を送付できるよう時間的余裕をもって行うこと。
- (注7) 受験票は、出願期間最終日から1週間以内に発送する予定です。
- (注8) 提出書類の中に英語以外の外国語で書かれた証明書、文書等がある場合には、その日本語訳を添付してください。

7. 入学検定料

入学検定料の額 30,000円

納入方法

- (1) 日本国在住の者：銀行振込により納入してください。

振込先：銀行名・支店名 「三井住友銀行・国立支店」
 口座名義 「国立大学法人一橋大学国際公共政策教育部検定料口」
 口座種別・口座番号 「普通預金・7761831」

※ 本大学院指定の専用振込用紙はございませんので、各自、利用する銀行等の所定の用紙、又は、ATM等でお振込みください。

なお、振込手数料等は、出願者各自のご負担となります。

- (2) 日本国外に在住の者：一橋大学のホームページからクレジットカード決済により納入してください (<http://www.hit-u.ac.jp/admission/index.html>)。

納入期間

特に指定しませんが、出願期間中にお振込み等をしていただくことが妥当です。

- (注9) 日本政府（文部科学省）奨学金留学生（研究留学生）は、検定料は不要です。所属大学が発行する留学生身分を証明する書類を提出してください。

8. 出願方法

志願者は、入学検定料を納付したのち、上記の出願書類を一括し、郵送（書留郵便）により提出してください。書類を持参しての出願は受け付けません。封筒の表面左下に「国際・公共政策大学院○○○○プログラム出願書類在中」と朱書きしてください。（○○○○は希望プログラム名を記入）

出願期間：平成30年1月9日（火）から平成30年1月15日（月）まで（期間内必着。ただし、出願期間を過ぎて到着したものうち、平成30年1月12日（金）以前の消印があるものは、受け付けます。）

出願書類の送付先：〒186-8601 東京都国立市中2丁目1番地
 一橋大学国際・公共政策大学院事務室

9. 選考方法及び選考基準

選考方法はプログラムにより異なりますので注意してください。選考においては、専門知識のほか、問題発見能力、分析・統合能力、理論的思考力及び記述力等を審査します。

10. 選考日程

公共法政プログラム

(1) 第1次試験（筆記試験）

試験日：平成30年2月6日（火）

試験時間：10時00分～12時00分

試験科目：憲法、行政法、行政学から1問を選び、日本語で解答します。

試験場：一橋大学（東京都国立市中2丁目1番地）

交通：JR中央線国立駅南口下車、徒歩約10分

第1次試験合格発表（第2次試験（面接試験）・試験時間及び試験室等の発表含む）

発表日時：平成30年2月7日（水）13時00分

掲示場所：一橋大学国立西キャンパス大学院掲示場及び東キャンパスマーキュリータワー3310室前掲示板
国際・公共政策大学院のホームページ【<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/>】にも掲載します。

(2) 第2次試験（面接試験）

第1次試験合格者に対して、研究計画書等に基づく面接試験を行います。

試験日：平成30年2月8日（木）

試験時間：10時00分～17時00分頃

試験場：一橋大学（東京都国立市中2丁目1番地）

交通：JR中央線国立駅南口下車、徒歩約10分

グローバル・ガバナンスプログラム

書類審査により選考を行います。

公共経済プログラム

(1) 第1次試験（書類審査）

第1次試験合格発表（第2次試験（面接試験）・試験時間及び試験室等の発表含む）

発表日時：平成30年1月26日（金）13時00分

掲示場所：一橋大学国立西キャンパス大学院掲示場及び東キャンパスマーキュリータワー3310室前掲示板
国際・公共政策大学院のホームページ【<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/>】にも掲載します。

(2) 第2次試験（面接試験）

第1次試験合格者に対して、研究計画書等に基づく面接試験を行います。

試験日：平成30年2月8日（木）

試験時間：10時00分～17時00分頃

試験場：一橋大学（東京都国立市中2丁目1番地）

交通：JR中央線国立駅南口下車、徒歩約10分

11. 最終合格発表

発表日時：平成30年2月16日（金）13時00分

掲示場所：一橋大学国立西キャンパス大学院掲示場及び東キャンパスマーキュリータワー3310室前掲示板
国際・公共政策大学院のホームページ【<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/>】にも掲載します。

12. 入学手続き

(1) 入学料の納入期間

平成30年2月26日（月）から平成30年3月2日（金）まで

この期間内に納入がない場合は、入学辞退者となります。

ただし、日本政府（文部科学省）奨学金留学生（研究留学生）は、入学料は不要です。

(2) 入学料の額

282,000円

本学には入学料の免除・徴収猶予の制度があるので、希望する場合には入学料を納入せずに、上記の期間内に本学学生支援課で申請手続きを行ってください。なお、入学料納入後の免除・徴収猶予の申請はできません。また申請を行っても不許可となることもありますので、入学料納入準備は十分に行ってください。

(3) その他

入学手続きに必要な書類とその提出方法については、合格者に改めて通知します。

授業料（年額535,800円）については、入学後に納入することとなります。納入時期・納入方法については、改めて通知いたします。納入金額は予定額であり、在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納入金額が適用されます。

なお、本学には入学料及び授業料の免除・徴収猶予の制度がありますが、免除実施枠は僅かですので、入学料・授業料納入の準備は十分に行っておくようお願いします。

■「一橋大学への留学を希望する方へ」の案内が本学国際課のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/pros/index.html>

※授業料免除、学生寮等については、学生支援課が担当しています。問合せ先は、下記のとおりです。

- ・ 授業料免除・授業料徴収猶予（延納・分納）・入学料免除に関する問合せ先 Tel 042-580-8117
- ・ 奨学金に関する問い合わせ先 Tel 042-580-8139
- ・ 学生寮の入居者募集に関する問合せ先 Tel 042-580-8141
- ・ 学生寮の設備に関する問合せ先 Tel 042-349-0039

※学生寮（国際交流会館及び国際学生宿舎）について

本学学生寮（国際交流会館及び国際学生宿舎）への入居希望者は、平成29年12月中に本学ホームページに「入居者募集要項」を公表しますので、要項に従い申請してください。

<http://hit-u.ac.jp/shien/campuslife/apartment.html>（国際学生館景明館）

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/curr/accom/apply.html>（国際学生宿舎（留学生のみ））

13. 注意事項

- (1) 入学試験に関する事務は、すべて国際・公共政策大学院事務室で行います。
- (2) 出願書類及び検定料は返還いたしません。また、各種証明書は、特別の指定があるものを除き、必ず原本(オリジナル)を提出してください。複写(コピー)したものは受け付けません。
- (3) 出願書類に不備がある場合には、出願を受付けません。
- (4) 日本滞在が2年を超える者で、かつ、出願時点において、企業・官庁等に2年以上の実務経験を有する者は、「春季社会人特別選考」により出願することができます。「春季社会人特別選考」については、別途募集要項を配布しています。
- (5) 志願者が記入する書類には、すべて印字又は黒のボールペンを使用してください。
- (6) 第1次試験（筆記試験〔筆記試験は公共法政プログラムのみ〕）及び第2次試験（面接試験）の際には必ず受験票を持参してください。
- (7) 本学が指定する試験会場及び試験時間は変更できません。

- (8) 身体機能に障害があり、受験時や入学後の学修に特別の措置を必要とする志願者は、その旨を出願前に国際・公共政策大学院事務室に申し出てください。申し出にしたい、所要の措置を講じます。なお、この申出によって不利益を被ることはありません。
- (9) 入学試験合格者の成績は、入学後の教育・学業支援等の目的に使用することがあります。
- (10) 入学試験に関する問い合わせは、氏名、電話番号、メールアドレス、志望プログラムを明記の上、書面(手紙、ファックスまたは電子メール)により行ってください。電話による問い合わせには応じられません。なお、国際・公共政策大学院ウェブサイト (<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/>) の「入試情報」に「Q&A」を掲載していますので併せてご覧ください。

【問い合わせ先】 一橋大学国際・公共政策大学院事務室
所在地： 〒186-8601 東京都国立市中2-1
FAX： 042-580-9085
E-mail： info-ipp@dm.hit-u.ac.jp

春季外国人留学生特別選考

受験 番号	*
----------	---

平成 30(2018)年度

一橋大学大学院国際・公共政策教育部 専門職学位課程 入学志願票

志望プログラム		<input type="checkbox"/> 公共法政 <input type="checkbox"/> グローバル・ガバナンス <input type="checkbox"/> 公共経済			写真添付欄 1. 最近3ヶ月以内に撮影 2. 正面向き上半身無帽 3. 縦4cm×横3cm 4. 裏面に氏名を記入
氏名	(フリガナ)	生年月日	(西暦で記入)		
	英字表記		性 別	年 月 日 男 ・ 女	
Family Given Middle					
連絡先	現住所： (〒 -)				国籍
	電話番号：(自宅) (携帯) E-mail：				
学 歴 (小学校入学以降の学歴を年代順に記入してください。)					
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
年 月	□入学 □卒業 □その他 ()				
職 歴					
期 間		勤 務 先 名		職務の内容	
年 月 ~ 年 月					
年 月 ~ 年 月					
年 月 ~ 年 月					

記入上の注意 (1) *欄には記入しないでください
 (2) 日付は西暦で記入してください。
 (3) 学歴及び職歴の記入欄が不足する場合は、別紙に記入してください。

受験番号	*
------	---

平成 30 (2018) 年度

一橋大学大学院国際・公共政策教育部 専門職学位課程 入学試験写真票

志望プログラム <input type="checkbox"/> 公共法政 <input type="checkbox"/> グローバル・ガバナンス <input type="checkbox"/> 公共経済 -----
--

氏名	(フリガナ)	男・女	写真添付欄 1. 最近3ヶ月以内に撮影 2. 正面向き上半身無帽 3. 縦 4cm×横 3cm 4. 裏面に氏名を記入
	英字表記		
Family , Given Middle			
生年月日 (西暦で記入) 年 月 日			

記入上の注意 (1) *欄には記入しないでください
 (2) 日付は西暦で記入してください。

筆記試験 (公共法政)	*
----------------	---

面接試験	*
------	---

春季外国人留学生特別選考

受験番号	*
------	---

平成 30 (2018) 年度

一橋大学大学院国際・公共政策教育部 専門職学位課程 入学検定料納入控

志望プログラム
<input type="checkbox"/> 公共法政 <input type="checkbox"/> グローバル・ガバナンス <input type="checkbox"/> 公共経済

氏名	(フリガナ)
----	--------

入学検定料振込明細書（銀行窓口で振込みした際の控えや ATM で振込みした際の明細等）の写し又はクレジットカード決済完了画面を印刷したものをのりで貼ってください。

日本政府（文部科学省）奨学金留学生（研究留学生）は、この書類を提出する必要はありません。

記入上の注意： *欄には記入しないでください

春季外国人留学生特別選考

受験 番号	*
----------	---

平成 30(2018)年度

一橋大学大学院国際・公共政策教育部 専門職学位課程

研 究 計 画 書

志望プログラム

公共法政

グローバル・ガバナンス

公共経済

氏 名	研 究 テ ー マ

(研究計画書作成上の注意)

1. A4版の用紙を使ってください。
2. 研究計画書は3部作成してください。それぞれに表紙(このページ)をつけ、左上1か所をホチキスでとめてください。
3. 研究計画書のまとめかたは、募集要項の「6. 出願書類」を参照してください。

日本語能力評価票A (自己評価) Self-evaluation

(1) 読む力

- a. 日本語のしんぶんはぜんぜん読めない。(I cannot read Japanese newspapers at all.)
- b. 辞書を使えば、日本語の新聞が少し読める。
- c. 辞書を使えば、日本語の新聞がだいたい読める。
- d. 辞書を使わなくても、日本語の新聞がだいたい読める。

(2) 漢字

- ア. 読める漢字(Number of Kanjis I can read)
 - a. 0~100字
 - b. 101~600字
 - c. 601~1500字
 - d. 1501字以上
- イ. 書ける漢字(Number of Kanjis I can write)
 - a. 0~100字
 - b. 101~600字
 - c. 601~1500字
 - d. 1501字以上

(3) 聞く力

- a. やさしい日本語を聞いてもほとんどわからない。(I can hardly understand spoken Japanese.)
- b. やさしい内容の日本語をゆっくり話してもらえば50%以上分かる。
- c. 日本語のニュースを一回聞けばだいたいわかる。

(4) 話す力

- a. あいさつなどしかできない。(I only know easy greeting expressions.)
- b. 日常的なテーマについて少し会話ができる。
- c. 自分の専門について簡単な議論ができる。
- d. 幅広いテーマについて自分の意見をまとめながら議論ができる。

(5) 書く力

- a. 日本語がほとんど書けない。(I can hardly write Japanese.)
- b. 基本的な単語や表現を使って、だいたい正しい文章が書ける。
- c. 辞書を使い、時間をかければ、自分の専門について考えをまとめることができる。
- d. 辞書を使わなくても、自分の専門について考えをまとめることができる。

(6) 専門書を日本語で読んだ経験: a. ない b. 少しある c. 何回もある

(7) 専門書を日本語で読む必要: a. 必要ない b. 少し必要 c. 大いに必要

(8) 学習期間:

- ① 年 月 ~ 年 月 (時間/週) (クラス授業/個人レッスン/自習)
- ② 年 月 ~ 年 月 (時間/週) (クラス授業/個人レッスン/自習)
- ③ 年 月 ~ 年 月 (時間/週) (クラス授業/個人レッスン/自習)

(9) 使用教科書

- ① (課 ~ 課)
- ② (課 ~ 課)
- ③ (課 ~ 課)

(10) 日本での滞在経験

- ① 年 月 日 ~ 年 月 日 ホームステイ/学校/その他 ()
- ② 年 月 日 ~ 年 月 日 ホームステイ/学校/その他 ()
- ③ 年 月 日 ~ 年 月 日 ホームステイ/学校/その他 ()

(11) 日本語能力試験 級 点 (年 月 受験)

記入日 年 月 日

氏名 (Name) 印 (署名)

日本語能力評価票 B (日本語教師などが記入)

申請者氏名: _____

(1) 読む力

- a. 日本語のしんぶんはぜんぜん読めない。
- b. 辞書を使えば、日本語の新聞が少し読める。
- c. 辞書を使えば、日本語の新聞がだいたい読める。
- d. 辞書を使わなくても、日本語の新聞がだいたい読める。

(2) 漢字

ア. 読める漢字

- a. 0~100字 b. 101~600字 c. 601~1500字 d. 1501字以上

イ. 書ける漢字

- a. 0~100字 b. 101~600字 c. 601~1500字 d. 1501字以上

(3) 聞く力

- a. やさしい日本語を聞いてもほとんどわからない。
- b. やさしい内容の日本語をゆっくり話してもらえば 50%以上分かる。
- c. 日本語のニュースを一回聞けばだいたいわかる。

(4) 話す力

- a. あいさつなどしかできない。
- b. 日常的なテーマについて少し会話ができる。
- c. 自分の専門について簡単な議論ができる。
- d. 幅広いテーマについて自分の意見をまとめながら議論ができる。

(5) 書く力

- a. 日本語がほとんど書けない。
- b. 基本的な単語や表現を使って、だいたい正しい文章が書ける。
- c. 辞書を使い、時間をかければ、自分の専門について考えをまとめることができる。
- d. 辞書を使わなくても、自分の専門について考えをまとめることができる。

(6) 専門書を日本語で読んだ経験: a. ない b. 少しある c. 何回もある

(7) 専門書を日本語で読む必要: a. 必要ない b. 少し必要 c. 大いに必要

(8) 日本語能力試験 級 点 (年 月 受験)

◎ 評価方法 (いつ、どこで、どのような形で判断しましたか)

◎ 総合評価 (申請者は本大学院で修学できると判断できますか、該当箇所に✓して下さい。)

おおいにできる かなりできる できる 努力しだい できない

記入日: _____ 年 月 日

記入者: 所属 _____

役職 _____

氏名 _____ 印 (署名)